伝統芸能や歌謡をハツラツと

登米市誕生記念「第1回青年文化祭」

第1回市青年文化祭（市青年団連絡協議会、県・市教育委員会主催）が2月26日、南方農村環境改善センターで開催されました。

昨年まで49回続いた登米地方青年文化祭を登米市青年文化祭と改めて開催。市内35歳までの青年による文化活動の発表を見ようと、子どもからお年寄りまで約100人が足を運びました。

開会式では、高橋吉輝会長（迫町）が「連日夜遅くまで準備してきた活動成果を見てほしい」とあいさつ。市長は「郷土芸能などの発表を通じて、他地域の同年代と交流し、地域づくりに貢献してほしい」と激励しました。

ステージ発表では、青年会活動として郷土芸能を積極的に取り組んでいる練習成果を披露。「横山火伏獅子舞（津山）」「鹿踊り（迫）」や「みちのくＹＯＳＡＫＯＩ踊り（豊里）」など、地域に古くから伝わる5演目が演じられました。

また、普段の生活で感じていることなどの意見発表や、さまざまなジャンルの歌謡を青年らしくハツラツと披露しました。

文芸作品の展示コーナーや○×ゲームなどの趣向を凝らしたアトラクションなども行なわれ、参加者は楽しい時間を過ごしていました。

なお、入賞者は6月に東松島市で行われる県大会に出場し、全国大会を目指します。

結果は次のとおりです（敬称略）。

【総合優勝】豊里町青年会**【郷土芸能最優秀賞】**南方町青年会**【意見発表最優秀賞】**高橋吉輝（迫町青年会）**【将棋優勝】**勝又武志（豊里町青年会）**【歌謡最優秀賞】**門田千鶴（迫町青年会）

津山町青年会の横山火伏獅子舞

力作が並べられた文芸作品展示コーナー

役割・責任を共に分かち合って

市男女共同参画社会講演会

市男女共同参画社会講演会（市、県主催）が2月25日、登米祝祭劇場で開催され、市内の婦人会、交通安全母の会などの各種団体から、約100人が参加しました。

講師は平成13年から2年間、県環境生活部次長を務め、現在武蔵工業大学教授の萩原なつ子さん。「地域活動から発する男女共同参画社会づくり」と題して講演しました。

萩原さんは「男女が相手を尊重し互いを認め、協力し合えばきっと素晴らしいまちづくりができる。お互いにチャンスを与えることが大切です」と役割・責任を分かち合いながら共に活動する必要性を話しました。

また、明治時代は男性が家計簿を作成したり、育児も積極的だったりしていたことなども紹介しました。

参加者の8割は女性でしたが、男性の参加者も萩原さんのユーモアを交えた講話に、耳を傾けていました。

萩原さんが役割・責任の男女共同性を話しました

男性の参加者に質問する萩原さん

共に生きる福祉社会の実現願い

市社協「福祉のつどい」

新市発足に伴い誕生した市社会福祉協議会の主催による「福祉のつどい」が3月16日、登米祝祭劇場で催されました。

民生委員、福祉推進委員、老人クラブやボランティア協会などの団体から約500人が参加。伊藤進二会長（中田町）のあいさつの後、社会福祉事業への貢献者や寄付者に対し、感謝状が贈られました。

つどいでは、思いやりの心をはぐくむために開催された「福祉ふれあい作文・標語・ポスターコンクール」の作文の部最優秀賞に輝いた、及川梨恵さん（米川小6年）と芳賀翔太君（登米中3年）が受賞作文を朗読。及川さんは「祖父の右手」と題して、右手が障害で不自由な祖父の様子などを発表しました。

また、「住み慣れた地域で暮らし続けるために」と題し、立教大コミュニティ福祉学部教授の森本佳樹氏による記念講演も行われ、参加者は共助の大切さを再確認していました。

最優秀賞の及川さんが受賞作文を朗読

「福祉は地域で支えることが大切」と語る森本教授

「米」をテーマに心の和と輪

西郷小のホームページが農水大臣賞

地域の魅力を伝えるインターネットのホームページの内容を競う「第12回マイタウンマップ・コンクール」の入賞作品が2月に決まり、西郷小（南方町）6年1組の「お米でつなげよう心の和・広げよう学びの輪」が農林水産大臣賞に選ばれました。

コンクールは、情報処理教育研修助成財団の主催によるもので、情報通信の果たす役割が重要度を増している今日、インターネットを活用し、距離と時間の壁を超えた新たな地域間交流を深めることを目的に開催されています。

全国の小中学校や高校、各種団体などが応募した397点から、内閣総理大臣賞や各大臣賞など33作品が選ばれました。

同小の作品は、3月に卒業した6年生が「米」をテーマとした交流と学習をまとめたもの。田植えや稲刈りなどの農作業を通して、水田とその周辺に生息する虫の種類や宮崎県の小学校と苗を交換し、環境が違う苗の育ち方の研究結果などを掲載しています。

また、同小周辺の水田には、伊豆沼や蕪栗沼から毎年多数のガンが訪れており、その生態や水田の歴史を学習した結果なども掲載しています。

「見てもらう人に分かりやすく伝えるのが難しかったけど、先生や友達にアドバイスをもらって良い作品になりました」と話すのは鈴木亜唯さん。文字の色や大きさ、写真の位置など、見やすさを心掛けて作成したそうです。

担任の成瀬陽子教諭は「とても大きな賞を受賞できて驚きましたが、子どもたちが一生懸命制作した結果です。小学校の良い思い出になったと思います」と話していました。

農林水産大臣賞の賞状を手に喜ぶ児童たち

西郷小の受賞作品ホームページアドレス
http://www10.plala.or.jp/naru0814/okome_k-okoro/